

氏 名 郭 崇

学 位 博士（日本語文化学）

学 位 記 番 号

学 位 授 与 年 月 日

審 査 研 究 科 外国語学研究科

論 文 題 目 『大和本草』の出典研究—『本草綱目』との比較を中心に—

論 文 審 査 委 員 (主査) 大東文化大学教授 藏中 しのぶ

(副査) 大東文化大学教授 丁 鋒

(副査) 大東文化大学特任准教授 青木 淳子

(副査) 群馬県立女子大学教授 安保 博史

#### 博士論文 審査報告

この部分に掲載されている内容については、論文の内容の要旨及び論文審査の結果の要旨に関する箇所では無い為、加工がされておりますので、ご了承願います。

この部分に掲載されている内容については、論文の内容の要旨及び論文審査の結果の要旨に関する箇所では無い為、加工がされておりますので、ご了承願います。

## 2. 論文の要旨およびその特色

本論文は、貝原益軒撰『大和本草』の主要な典拠、明・李時珍撰『本草綱目』を軸とする出典研究を基礎として、『大和本草』の分類と配列の体系・構造をあきらかにするとともに、その独自性を論じ、『大和本草』を支える貝原益軒の「民生日用」の思想の成立の解明にいたったものである。

本論文の構成は次のとおりである。

序章では、前提となる先行研究、本研究が用いる方法論、本論文の構成を述べる。

### 序章 第一節 問題の所在と本研究の意義

一、貝原益軒撰『大和本草』／二、研究史—貝原益軒とその学問に関する先行研究／三、問題の所在と本研究の意義

### 第二節 本研究の方法と構成

一、研究方法／二、本論文の構成

第一章では、『大和本草』と、『大和本草』がその大枠を継承する引用書『本草綱目』の研究史、書誌調査、『大和本草』引用書目484種の悉皆調査を行い、本研究の基礎となるデータを示した。

## 第一章 『大和本草』の成立と『本草綱目』

第一節 『大和本草』の成立背景／はじめに／一、中国における本草学／二、奈良・平安時代の本草学と『新修本草』／三、江戸時代の本草学と『本草綱目』／むすび

### 第二節 『大和本草』の書誌

はじめに／一、『大和本草』の成立／二、『大和本草』の構成／三、『大和本草』の流通と読者層／むすび

### 第三節 『大和本草』の引用書目

はじめに／一、『大和本草』引用書目の一覧／二、『玩古目録』と引用書目／三、『大和本草』「論本草書」と引用書目／むすび

#### 第四節 『大和本草』所引『本草綱目』

はじめに／一、『本草綱目』の成立とその伝本／二、益軒が参看した『本草綱目』／三、引用例の一覧とその引用手法／むすび

第二章では、『大和本草』の分類項目（部立）・配列を『本草綱目』と詳細に比較し、その独自性を論じた。第二節では『大和本草』の大分類が『本草綱目』の「陰陽五行説」に基づくこと、第三節では「木（植物）」の分類体系に食・衣・住・心という独自の分類概念が内在することを論じた。

### 第二章 『大和本草』の分類体系と『本草綱目』

#### 第一節 『大和本草』のオントロジ

はじめに／一、貝原益軒の分類意識／二、『大和本草』の部立と『本草綱目』／三、『大和本草』における分類概念／四、むすび

#### 第二節 『大和本草』の大分類

はじめに／一、『大和本草』と『本草綱目』の配列／二、『本草綱目』の「陰陽五行説」／三『本草綱目』の「陰陽五行説」の継承／四、むすび

#### 第三節 『大和本草』「木（植物）」の分類体系—食・衣・住・心—

はじめに／一、『本草綱目』「木（植物）」の部立と配列／二、『大和本草』「木（植物）」の部立と配列／三、『大和本草』「木（植物）」の独自性

第三章では、『大和本草』には「目録」に掲出されない上位分類・下位分類が内在することを見だし、『大和本草』「穀」類と『本草綱目』の詳細な比較検討によって、『本草綱目』になく、『大和本草』が独自に立てた分類体系の独自性と貝原益軒の編纂意図を論じた。

### 第三章 『大和本草』「穀」類に内在する下位分類—「稻」「大豆」「麦」群と『本草綱目』—

#### 第一節 『大和本草』「穀」類に内在する下位分類

はじめに／一、『大和本草』「穀」類について／二、『大和本草』「穀」類の構成と『本草綱目』「穀」部／三、『大和本草』「穀」類に内在する四つの群／四、『大和本草』「穀」類の優先順位と配列意識／むすび

#### 第二節 『大和本草』「稻」群と『本草綱目』「麻麦稻」類

はじめに／一、『大和本草』「稻」群の構成と『本草綱目』「麻麦稻」類／二、『大和本草』「稻」群の配列意識／三、『大和本草』「稻」群の意義

#### 第三節 『大和本草』「大豆」群と『本草綱目』「菽豆」類

はじめに／一、『大和本草』「大豆」群の構成と『本草綱目』「菽豆」類／二、『大和本草』「大豆」群の配列意識／三、『大和本草』「大豆」群の意義

#### 第四節 『大和本草』「麦」群と『本草綱目』「麻麦稻」類

はじめに／一、『大和本草』「麦」群の構成と『本草綱目』「麻麦稻」類／二、『大和本草』「麦」群の配列意識／三、『大和本草』「麦」群の意義

第四章では『大和本草』独自の分類概念を取り上げ、第一節では『大和本草』の《草木の観賞》という独自の分類概念の背後に、江戸の庭園・盆栽ブームと文芸への広がりがあることを論じ、第二節では、『大和本草』が「薬」類・「薬木」類を別に立てる点に着目して、『大和本草』独自の「本草」の概念の成立を論じた。

#### 第四章 『大和本草』の独自分類—「草」「木」の対応—

##### 第一節 『大和本草』における観賞用の草木—《植物の観賞》の成立をめぐる—

はじめに／一、『花譜』から『大和本草』へ／二、『大和本草』に内在する「観賞用の草」「観賞用の木」／三、『大和本草』における《植物の観賞》の成立／四、《植物の観賞》という概念の定着した背景／むすび

##### 第二節 『大和本草』「薬」類・「薬木」類—「本草」の意味範疇をめぐる—

はじめに／一、『大和本草』「薬」類・「薬木」類の構成／二、『大和本草』「薬」類の配列と『本草綱目』／三、『大和本草』「薬木」類の配列と『本草綱目』／四、『大和本草』における「薬」類・「薬木」類の創出／五、『大和本草』における「本草」の意義

第五章では、「有用之学」を提唱した貝原益軒の「民生日用」の思想の出典が朱子学にあり、この思想が『大和本草』「民用」類で初めて成立し、『大和本草』全体の分類概念と構成を支えていることを論じ、今後の課題として、貝原益軒をめぐる近世の学者間ネットワークの広がりを提示した。

#### 第五章 『大和本草』「民用」類の成立と「民生日用」の思想

##### 第一節 『大和本草』「民用」類の成立

はじめに／一、『大和本草』と「民用」／二、『大和本草』「民用」類の構成／三、『大和本草』「民用」類に内在する下位分類と配列／四、『大和本草』「民用」類の意義／五、むすび

##### 第二節 貝原益軒「民生日用」の思想

はじめに／一、貝原益軒と「有用の学」／二、『大和本草』と「民生日用」／三、『大和本草』における「民生日用」の出典／四、貝原益軒と朱子学／五、貝原益軒の学問観と知のネットワーク  
終章として「本研究の結論」「今後の課題」をまとめ、巻末に「初出一覧」「謝辞」、附表として「一、貝原益軒年譜」「二、『大和本草』所引書名索引」を付す。

### 3. 論文の審査内容および評価

貝原益軒最晩年の本草学の集大成『大和本草』は、膨大な文献の引用から成るが、その出典研究は未だなされていない。本論文は、これまで手つかずであった『大和本草』の出典となる引用書目 484 種の悉皆

調査を行い、『大和本草』本文と出典の原文との一字一句にいたる緻密な出典研究・比較研究によって、『大和本草』における『本草綱目』の受容の具体相をあきらかにした。『本草綱目』との出典研究によって、『大和本草』の部立・配列から、その分類概念と全体の構成を論じ、『大和本草』のもつ独自性と特質を次の三点にわたって導きだした手堅い文献学の基礎研究として高く評価される。

第一に、『大和本草』の分類概念と構成である。第一章の出典研究の基盤に立脚して、第二章の『大和本草』の大分類が『本草綱目』の「陰陽五行説」に基づくという指摘、また、『本草綱目』との比較によって、「木（植物）」の分類体系に食・衣・住・心の分類意識の反映を浮かびあがらせた点は、独創的な発見であり、『大和本草』のみならず、古辞書・類書をはじめとする類聚編纂書の分類概念、編纂意識の本質解明に益する新たな研究方法と視界を切り拓いたものである。地道な調査にもとづく、手堅くも独創的な成果であり、『大和本草』の構成の大枠が『本草綱目』に依拠しつつも、『大和本草』の書名のとおり、日本の植生や日本人の衣食住を優先的に配列し、日本のものを尊重するがゆえに『大和本草』と命名されていたことを、初めて実証的に論証しえた点は秀逸である。

第二に、『大和本草』独自の分類概念の成立と貝原益軒の編纂意図である。第四章『大和本草』の《草木の観賞》という独自の分類概念成立の背後に、江戸の庭園・盆栽ブームと文芸との相関を指摘した点は、本草学や類書・古辞書のみ閉じられた問題ではなく、広く文化史学への可能性・将来性を感じさせる。近世文学全般を視野に入れ、なお調査研究を深めてゆくことを期待する。さらに、『大和本草』が「薬」類・「薬木」類を別に立てる点を掘り下げて、『大和本草』独自の「本草」の概念をあきらかにした点は、なお考証の余地を残すものの、きわめて重要な指摘である。

第三に、「有用之学」を提唱した貝原益軒の学問の結晶ともいえるべき「民生日用」の思想は、これまで漠然としたままに論じられてきた。その「民生日用」なるものの本質が朱子学にあり、この思想が『大和本草』で初めて成立したことを考証しえた点は大きな成果である。

申請者は、地道な努力によって、貝原益軒の本草学の集大成『大和本草』の文献学的研究に、出典論による引用書目研究の基盤を築いた。巻末の「『大和本草』引用書目索引」は有用である。今後は、『本草綱目』のみならず、多様な引用書目とその出典関係を詳細に検討するとともに、調査資料と漢文の読みを深め、『大和本草』の出典体系を軸として、これを支える貝原益軒の近世の学者間ネットワークと中国輸入書の問題、古辞書・百科事典類の享受と流通の具体相を解明していくことを期待する。

#### 4. 結論

以上の審査内容、評価に基づき、本論文を審査対象とする学位論文審査委員会は、全員一致をもって、本論文は博士（日本語文化学）の学位を授与するに値するものと判断し、ここに報告する。

以上